九条 別所憲法９条の会 たより

2024年12月 第196号

一年も最後の月、霜月、師走の12月。ただでさえ日の暮れが早い日が１日１日歳末へと向かい気忙しくなってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？　晴天続きのおかげで、青い空の美しさに今さらながら気づき良く見上げるようになりました。空気の澄んだ高い空のすじ雲や綿雲の美しさにも見とれ、今日はどんな雲かなと見上げ、足元に目を向ければ黄色い石蕗の花や真ん丸の白いハ手の花に心ほっこりの散歩を楽しんでおります。

今年のノーベル平和賞は『日本原水爆被害者団体協議会』に贈られる快挙でした。「歴史の証人である被爆者はいつの日か、この世から去ってしまう。しかし記憶に関する強い文化と継続的な献身とあいまって、日本の新たな世代がその経験と目撃者のメッセージを伝えるようになっている。彼らは世界中の人々を刺激し、学ばせている。このように、彼らは核のタブーを保持するのを助けている。核のタブーは人類にとっての平和な未来の前提条件だ。」授賞理由に心動かされます。10日の授賞式で、代表の田中熙巳さんはどのような演説をなさるのでしょうか？　核なき世界の実現に向けて結実した核兵器禁止条約の批准へむけて、今こそ政府は行動すべき時ではないでしょうか。

12月の例会はありません。代わりに懇親会を開きます！　どなたさまも大歓迎！　ぜひぜひお越しください。お待ちしております。

日　時　**12月19日(木)　12:45～15:30**

会　場　Nシティ東自治会館 ハーモニーホール
八王子市別所1丁目 116-1

※ 参加申込みは不要です。場所がわからない時は関の携帯電話までご連絡ください。

参加費　1500円
食べ物、飲み物を用意いたします。

皆でワイワイと飲み、食べましょう！

次回の例会は1月27日(月)に開催予定です。詳細はたより1月号にてお伝えします。

堀之内駅前での宣伝
12/16(月) 10:00～
殺傷武器の生産・輸出反対
イスラエルのガザ攻撃反対
大軍拡、戦争への道反対

12/15(日)13:30
八王子アクション
JR八王子駅北口

12/19(木)18:30～
新たな戦前にさせない
TheEND自民党政治
国会議員会館前集会

731・原爆・ビキニ・フクシマ展
2024年12月18日(水)～23日(月)
10:00～19:00　入場無料
八王子市立中央図書館　地下展示室
JR西八王子駅北口から徒歩4分
主催：日中友好協会八王子支部　他
https://nittyuyukohachioji.web.fc2.com/

パレスチナ映画の紹介

11月の例会ではパレスチナの現状についてお話をうかがいました。理解をさらに深めるためにDVDを見るのはいかがでしょうか。視覚で理解するのはとても良い方法だと思います。

わたしたちのホームページの【9j映画コレクション】では22作品を紹介しています。物語編が4本、ドキュメンタリーが18本です。今回はドキュメンタリーをひとつ紹介します。

裏へつづく

【映画コレクション】のドキュメンタリー作品は2003年制作のものから挙げています。20年以上が過ぎて今なお、「虐殺」です。大勢の人が映像記録を見たでしょうけれども、希望への歩みはのろいものです。

パレスチナ映画22作品を紹介しています　https://bessho9.info/box/palestine_movies.html

冬を迎えたガザ・早く停戦を！　北林岳彦

師走の迫る11月29日、国際的な「パレスチナ連帯デー」にあたり、東京では新宿駅を囲んで4か所で集会が開催され、医療関係者やジャーナリストへの攻撃に抗議し、死者を悼み、あるいはイスラエル製兵器の導入に反対し、イスラエルと関係ある企業へのボイコットが呼び掛けられていました。

ガザについての報道はめっきり少なくなりました。11月下旬にはパレスチナ難民救援事業機関＝UNRWAの保健局長を務められている清田明宏さんが来日し、イスラエル政府が進めているUNRWAの活動規制の問題点・危険性を訴えられ政府にも支援を要請しましたが、その後シリア情勢が急に緊迫化、アメリカは政権移行期に入ってしまい、ガザ情勢はかき消されてしまいそうです。

現実には深刻な状態です。停戦は遠のき、秋口から支援物資はほとんど入らなくなりました。特に北部ではイスラエル軍の包囲が2か月以上となり、もはや人道状況を評価する以前の在り様です。

街には死臭と排泄物の匂いが漂い、飢えた子どもたちはゴミの山から食べられそうなものを捜しています。冬の冷たい雨が降る空を無人偵察機（ドローン）がたくさん、四六時中飛んでいます。

国連安保理では、アメリカが5度目の停戦案への拒否権行使を行いました。しかし、なんとしても停戦がまず前提です。諦めるわけにはいきません。

日本が真に自由と平和を重んじるのであれば、率先して停戦への働きかけに努め、国連の救援活動の継続を守り、追い詰められている人びとを支える義務があります。求められていることは限りなく、手段はいくらでもあります。もちろん人道支援への寄付も大事ですが、私たち市民も政府機関や国会に働きかける義務と権利があります。この事態は何にも増して未曾有の人道危機を終わらせ、ひとつの民族の自由と尊厳を守る試金石なのです。

『パレスチナこどものキャンペーン』のサイトはこちらから ❯ https://ccp-ngo.jp/

表からつづく

壊された5つのカメラ パレスチナ・ビリンの叫び

2011年制作（90分）
《息子の成長記録が目的だったが… 》

イスラエル人入植地に隣接するヨルダン川西岸のビリン村に住むフォト・ジャーナリストのイマード、とは言っても生計を立てているのはオリーブや農作物の生産。1990年代の半ば、四男の誕生を機に彼の成長を記録すべくカメラを購入した。
彼や友人の土地に分離壁が作られようとする。承諾などしていないにもかかわらずだ。パレスチナ人のオリーブ畑のすぐ横にはイスラエル人入植者の高層アパートが延々と立ち並ぶ異様な光景。

イスラエル工事関係者はクレーンを使って木々を引っこ抜いていく。オリーブの木もブルドーザーでなぎ倒していく。イスラエル兵は抗議するパレスチナ人に催涙弾や実弾を発射する。彼らはパレスチナ人の家にも押し入ってこどもを連れ去る。 子どもを連れ去るのは子どもたちが抗議デモを行ったからだと。その様子を間近で撮影するイマード。驚くべき映像の連続です！　何度も「撮影をやめろ！」と怒鳴りつけられます。そんな中、イマードのカメラは銃撃を受けて壊れる。支援者が新しいカメラを持って来てくれるが、繰り返し壊される。そうして、壊れたカメラは5個。イマードの闘いの証拠品であり、悲惨な蒐集物でもある。

ビリン村は抵抗運動の中心地であり、ヨーロッパ各国からも支援者が駆け付け、同じようにイスラエル兵の攻撃を受ける。中にはイスラエル人の支援者もいるが、イスラエル兵は容赦しない。
わたしたちが全く知らない光景が展開される。 見て、知って、感じることが肝要だ！

別所憲法9条の会ホームページ　https://bessho9.info/